



取材を終えて

クラストコ編集者が、女性たちの姿を通して見た「豊橋だからこそできる働き方・暮らし方」とは。



profile

クラストコ編集部(左)
岩下 加奈

豊橋市在住、編集者・ライター。
ミニトマトが大好きで、ずっと食べ続けることができる。

クラストコ編集部(右)
竹田 佳子

豊橋市広報広聴課4年目職員。
オフの日は、子どもの宿題と遊びに付き合う。

何をやりたいかを大切に、その答えに 近づくよう努力している姿が素晴らしい!

豊橋で働くことは

岩下 約1年かけて今回の「働く」をテーマに取材してきましたが、素敵な女性たちばかりでしたね。

竹田 今回取り上げた女性たちは、海、伝統工芸、農業、レジャー施設、多国籍と、豊橋らしい働き方や暮らし方をしている方でした。豊橋にはそれだけ、仕事にできる素材やネタがあり、考え次第で、仕事にできるのが素晴らしいと改めて感じました。

岩下 実際にサーフィンをしている姿や、筆作り、ミニトマト栽培、動物との触れ合い、多文化交流など、豊橋の自然豊かな気候風土だったり、住みやすい環境だからこそ叶えられる仕事なのかなと思いましたね。特に、バナッサさんの取材では、教室にいた生徒のほとんどが外国の方々で、ここは豊橋?日本?と錯覚するほど異国な感じが新鮮でした!みんなパワフルだったな。

竹田 豊橋は、海以外にも山や川、公園など自然に囲まれています。帆船掛けや豊橋凧などその道の達人もいますし、たくさんの農家さんたちが私たちの暮らしを豊かにしてくれています。そして、文化的施設も多く、さまざまな芸術・文化に触れられるのも魅力ですね。

岩下 給料や休暇、アクセスを意識して仕事を決めるのは大事なことです。彼女たちは、先にやりたい

こと、何がやりたいかを自分に問いかけて、その答えに近づくために努力していますね。その姿が勇ましく、強い信念・意思・パワーがあると感じました。

竹田 今ある環境をいかに変化させて、充実させるかで働き方・暮らし方は変わってきますね。だからこそ、豊橋の「働きやすさ」は「暮らしやすさ」にもつながっていると感じています。

豊橋で暮らすこと

岩下 クラストコ2号目の企画出しの時に、「仕事」だけに的をしぼらず、その働く人がどんな暮らしをしているのかも取り上げたいと誌面づくりにもこだわりましたよね。

竹田 豊橋には暮らす楽しみもあると思うんです。働くことはもちろん大切ですが、オフ日をどう過ごしているか、どう暮らしを愉しんでいるのか知りたいなと思いましたね。

岩下 実際に取材をして、みなさんのオフ日の過ごし方に、豊橋らしさがあって驚きました。穂の国・豊橋ハーフマラソンに出場するためにランニングをしたり、公園や田園風景に癒やされたりと、オンとオフの切り替えがはっきりしているから、充実した仕事ができているんですね。

竹田 自然を感じて心癒やされる「静」の部分と、アクティブにスポーツやサークルで体を動かして汗を流す「動」の部分がちょうどよいバランスを保っていた

り。市内で、いろんなことができるオフのコンテンツがあるということも改めて感じました。

岩下 オンのためにオフを満喫し、オフのためにオンも全力で取り組むことができる環境が揃っているのは嬉しいですね。

竹田 それに、彼女たちは食やファッション、子育てなど、女性的な一面を忘れていないのも印象的でした。

岩下 そうですね。それはすごく感じました。自分磨きのために惜しまない努力が、さりげなく伝わってきて素敵だなと思いました。

竹田 彼女たちのそういう熱意や姿が女性たちの共感を得て、彼女たちの周りに人が集まってくるんだと思います。それによって、彼女たちにまた輝きが増していく…という相互作用ができていっているのかも。そんな女性たちがいる豊橋を誇りに思いましたし、私も頑張ろうと勇気づけられました。



クラストコ
働く

改めて感じる、豊橋で働く・暮らすことの良さ

- 1 豊橋には仕事にできる素材やネタがあり、考え次第で仕事にできる
- 2 「働きやすさ」と「暮らしやすさ」はリンクしている
- 3 オンのためにオフを満喫し、オフのためにオンも全力で取り組むことができる環境がある